

令和6年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	串間市コミュニティバス	
所在地	串間市大字西方5550 串間市大字西方5726番地1	
指定管理者	名 称	宮交タクシー株式会社
	代表者	代表取締役社長 早崎 秀一
	住 所	宮崎市新栄町91番地
モニタリングの実施方針・方法等	毎月、業務報告書の提出により、モニタリングを実施。 また、サービスの質については、令和7年2月17日～3月7日において施設(串間市コミュニティバス)に乗りし、利用客に対してアンケート調査を行った。	
担当課 (問い合わせ先)	串間市役所 総合政策課 人口対策係	

■モニタリングの総合コメント

串間市コミュニティバスの運行については、串間市地域公共交通計画(以下「交通計画」という。)に則った運行を行うことにより、交通弱者にとって必要不可欠な公共交通機関として運行を維持するとともに、通院や市内での買い物サポートなど住民サービスが提供できている。

令和6年度は、台風による計画運休や、線状降水帯の発生にともなう運休、夏の猛暑による外出控えなどにより、利用者数は減少となった。

指定管理者を含む運輸業界においては、運転士の高齢化、人員不足が顕著になっており、年間を通じて、ダイヤ編成どおり運行することも困難になっている。今年度においても無事故、重大な誤りもなく運行することができ、かつ、燃油、資材費の高騰が続く中、令和4年度に締結した協定に基づき、指定管理料の範囲内で運行を行えたことは大いに評価できる。

また、毎月連絡調整会議を開催し、市と指定管理者間の意思疎通を図ることができている。

■今後の業務改善に向けた考え方

令和6年度の乗者数は15,548人。令和5年度(16,831人)と比較すると1,283人減少している。

計画値(計画27,000人)の57.6%と目標値に達していない状況であり、令和6年度に増加した利用者数が再び減少に転じた。

今後も交通計画を推進し、高齢化等に伴い変化する移動ニーズの量や質に対応した持続可能な公共交通ネットワークの構築・維持に取り組んでいく。

また、引き続き新規利用者の獲得に向けて、地域との連携強化、関係機関との協力体制の構築など、利用促進の取組を、市と指定管理者が連携して進めていく必要がある。

■基本的な考え方(施設の性格・目的との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮)

合目的性・公平性・効果性
交通計画に基づき、市内の交通空白地域をカバーし、市民生活に必要な公共交通機関として維持することで、高齢者の通院や生活用品の買い物の足となり、住民サービスが提供できている。

■業務内容

・機能性・独創性(事業への具体的な取り組み方)
自主事業として、車両の空きスペースを活用して広告を掲載し、収益の確保に努めている。また、臨時便の運行や乗り方教室の開催、イベントでの車両展示など、市民に親しみをもってもらう取り組みを実施し、利用促進及び収益の確保に努めている。
・責任性・実効性(施設の運営体制や組織)
組織としての采井体制が定めてあり、運行管理者及び整備管理者においては、保有資格と友に定めてある。乗務員について、普通・大型二種免許保有者と大型一種免許保有者においては、市町村有償運送等運転者講習受講者である。物的施設としても維持管理できている。市と指定管理者間の意思疎通についても、連絡調整会議等を通じて十分なされている。
・明瞭性・規律性(適正な事務や経理)
料金箱等の確実な管理と報告により、収入や乗車人数、日報の記入等が行われており、毎月の業務報告書が確実に提出されている。
・安全性(安全管理、緊急時等の対応)
運行管理者により、常務前後の対面点呼を行い、天候や道路状況の確認、アルコールチェックを行っている。また、毎月1、10、20、30日を事故ゼロの日と定め、所長による点呼を行い、事故防止に取り組んでいる。さらに、災害や事故など緊急時の連絡体制を定めており、事務所内に掲示している。 運転以外の操作を行う場合は、必ず停車してから行うことなど周知徹底を図り、ドライブレコーダーを設置し定期的に研修を行い、乗務員の教育に努めている。(ドライブレコーダーのシステムで走行速度やウィンカーのタイミング、乗務員のわき見等を確認することができる。)
・社会性(環境等への配慮)
アイドル時間の短縮や冷暖房の効率的な使用、急発進・急停止の防止、エンジンブレーキの効果的な活用方法等の指導を行い、環境に配慮するとともに燃費向上に努めている。

■事業収支

経済性
令和6年度の収支は、収入33,024,545円に対し、支出33,642,196円となっており、収入(指定管理料・利用料金収入等)が運行経費を617,651円下回った。車両の修繕等においては、自社の整備士を派遣するなど、指定管理者が保有する資源を活用した経営努力を行っている。

■団体の経営状態

経営の健全性
宮交タクシー(株) タクシー事業では、県の助成金を活用した「プレミアム付きタクシー回数券」の販売や宮崎国際音楽祭、クルーズ船観光タクシー、JLPGAツアーチャンピオンシップリコーカップをはじめ宮崎市内で開催されるプロゴルフトーナメントなどの各種イベント輸送を確実に受注し、収入の確保に努めました。 貸切バス事業では、コミュニティバスや支援学校スクールバスの契約を前期同様の内容で継続しました。また、一般団体向けの貸切バスについては、SAGA2024国スポ・全障スポ(臨時営業区域)、サーフィン国際大会、ひなたフェス2024、プロ野球春季キャンプなどの各種イベントにおけるシャトルバス輸送を確実に受注し、収入の確保に努めました。 こうした取り組みの結果、タクシー事業の輸送回数には856,308回(同94.6%)と前期を下回りましたが、収入は14億82百万円(同104.3%)と前期を上回りました。貸切バス事業についても、輸送回数は2,704回(同95.4%)と前期を下回りましたが、収入は1億67百万円(同114.6%)と前期を上回りました。 宮交タクシーでは、売上高17億99百万円(同104.4%)、営業利益32百万円(同66.4%)と、増収減益になりました。